



2011.1130

H23 One Book One OSAKA 企画・PR 部会 報告

【出席者】One Book One OSAKA 事業運営委員他 8 名
【日時】平成23年11月30日(火) 午後1時~2時45分
【場所】大阪市立中央図書館 5階 中会議室

1. これまでの経過

7/27	第1回 One Book One OSAKA 事業運営委員会
8/4	第1回 One Book One OSAKA 事業子ども運営委員会
8/12	子ども運営委員夏休み図書館体験
10/23	第2回 One Book One OSAKA 事業子ども運営委員会
11/30	企画 PR 部会

2. One Book 関連行事

- ・ 図書館ホームページの[One Book One OSAKA News 14・15号](#)参照
- ・ 8/12 の子ども運営委員夏休み図書館体験は、今回はお泊りなし。図書館のカウンター業務や予約本さがしなどの体験をしてもらった。関連イベントの企画会議では、活発な意見が出て、11月の「ぐりとぐらを楽しむえほん展」に活かされた。
- ・ 「ぐりとぐらを楽しむえほん展」では、子ども運営委員は、大型絵本の読み聞かせ、クイズラリー考案、景品のバッチづくり、受付、採点、ポスター・チラシ作成、ディスプレイなど多岐にわたり担当した。
また、当日はたくさんのボランティアの方に工作教室や会場の見守りなどをしていただいた。
- ・ 絵本展で使った「ぐりとぐらなりきりコーナー」の背景パネルは、今年度中なら各区の地域館への貸出も可能（出版社許諾済）。ぜひ活用してほしい。衣装や帽子も貸出できる。
- ・ 地域館での関連行事について紹介
- ・ 投票用紙エントランスギャラリー展示（中央図書館） 5/20~6/1 12/2~14
- ・ 「ぐりとぐらを楽しむえほん展」11/26・27 中央図書館5階で開催（延べ約1400名参加）
- ・ 「ぐりとぐらをもっともっと知りたいあなたへ」チラシ配布（図書館の商用データベース等調べもの機能のPRも兼ねて配付）
- ・ いろんなことばの「ワンブックワンオオサカ」展8/19~12/14
中央図書館1階閲覧室内で第2回One Book トップ10の外国語絵本展開催中。
当該外国語絵本は、地域館にも貸出可能、展示利用も可。
- ・ 11月~12月 投票強化月間
市立全24館において、カウンターで利用者に投票用紙を配り、協力依頼。



3. 広報

今年度は、町会の広報掲示板には抽選漏れでポスター掲示できず。
新たな広報媒体としては、雑誌「教育大阪 10月号」に記事掲載、
地下鉄駅構内にポスター掲示（難波駅・天王寺駅・本町駅・・・）

4. 投票・開票進捗状況報告

2011. 11. 10 現在 投票数・開票結果 別途配付資料参照
※ 各館に届けられた投票用紙は各館で開票作業を実施中
西淀川図書館では区の絵本展で、独自に開票集計。

5. 課題について

- ・ 投票用紙に書かれたおすすめ理由やランキングトップ 100 の絵本を紹介する手段の拡充
（例えば、図書館蔵書検索システムと連動させ、貸出・予約状況画面を参照し予約も
可能にする、表紙画像情報付与など）
各館では、投票用紙の貼り出しやファイルにとして閲覧に供するなどの活用は実施。
- ・ 本事業の効果検証について 別途配付資料参照

6. 今後の本事業の取り組みについて

→来年は投票に関わる財源はなく、イベントのみ実施予定。
子ども運営委員は昨年度同様 12 月より公募開始。



《運営委員等からのご意見》

- ・ 西淀川区では各幼稚園・保育所・小学校などへボランティアが手分けして投票用紙を持っていった。先生方に直接、声をかけてお渡しすると投票数が上がる。
- ・ この事業の取組は、区によって温度差があり、都島区や西淀川区は活発だと感じる。
- ・ 自区で開票した結果、ボランティアがよく読み聞かせをしていた『ぴょーん』や『もこもこもこ』が上位に入っており、読み聞かせの影響も大きいということを感じる。
- ・ 小学校の投票用紙の回収率はもっと望めるのでは？学校図書館活性化事業の全校実施に伴い、学校図書館支援ボランティアが全校にいるので、声をかけてみてはどうか？投票用紙については図書主任の先生などを通して、お渡ししたほうが効果的。Face to Face での取組が大事になってくると思う。また、投票用紙を返送するのを忘れることもあるので、図書館からも締め切りが近づいたことなど、お知らせした方がよい
⇒去年は 12 月中旬に、図書館から全小学校へ「投票締め切り間近！」という文書を送付した。今年度も同様にお知らせする予定。（事務局）
- ・ 小学校の先生から「開票結果を教えてもらっていない」という声を聞き、図書館で配付し

ている開票結果の上位 100 のランキングリストをお渡しした。そのリストを参考に小学校の図書館で本を購入しようと考えていたようだ。

⇒投票結果については、昨年度の反省をふまえ、One Book 発表日に、関係協力機関へ配付し、その後、協力依頼等の度に、小学校へランキングリスト等も配付している。また、One Book のホームページにもリストを掲載しているが、やはり、図書館主任へ手渡しするなど Face to Face が効果的か。(事務局)

- ・ 小学校へ漠然と学校宛に投票用紙兼チラシを送付するより、図書主任の先生宛に直接送るほうが、効果的では？
- ・ 小学校の掲示板はボランティアが作成したポスターも貼ったり出来るので、活用できないか？
- ・ この事業の認知度は年々上がっても、どこまで先生方をお願いして子どもたちに書いてもらい回収できるかが問題。授業との兼ね合いもある。投票を児童に強制したくはないが、先生の取り組み方が鍵。
- ・ 低学年の宿題にしている小学校もあった。「いきいき」で子どもたちがその宿題を楽しそうに取り組んでいた。
⇒「いきいき(児童いきいき放課後事業)」で投票用紙を配布しては？という子ども運営委員からの意見もあったが、全市立小学校の児童に投票用紙を配付しており、1人1回という建前上、矛盾することになると考え配布せず。(事務局)
- ・ 簡単な感想文を書いて貼りだす「読書の木」という取組をしている学校もある。One Book の投票を絵本に特化している点が投票をむずかしくしているのでは？「絵本」の素晴らしさをわかっている先生もいるが、高学年で「絵本」は・・・？と考えている先生もいらっしゃる。高学年は「物語」に投票してしまいがち。
⇒「絵本」以外への投票でも「番外編」として、別ランキングでリストアップしていると先生方にお伝えし、そのまま投票用紙を送っていただいている。(事務局)
- ・ 十代や中学生の投票が少ない。
⇒中学校へは図書部・読書部・文芸部のある 28 校の担当の先生に声をかけて協力依頼し配布した。昨年度は「中学生に絵本なんて・・・」と拒絶される中学校もあったが、根気よく投票結果やランキングをお送りしたのが功を奏したのか、お引き受けいただいた。年齢別の 10 代の投票数のさらなる増加を期待したい。(事務局)
- ・ 投票を簡素化してでもこの事業を地道に続けていけたらいいなと願っている。用紙はホームページからダウンロードできるので、白黒でもよいのでは？お金をかける必要はない。世代間交流事業などの関連イベントもボランティアで協力して実施できるのでは？
- ・ この事業の周知には時間と年数がかかっている。3年でやめるのは勿体ない。継続の道を模索していきたい。

- ・ 「One Book One OSAKA」なのだから、大阪市だけではなく、大阪府も巻き込んで実施することも考えてみてはどうか？
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんが、孫に絵本を買ってあげることが多いが、どの絵本を選んだら喜ばれるのかわからないと、よく聞く。One Book は、市が実施しているので、トップランキング 100 は信頼がある。書店等とタイアップしてポスター等を掲示してもらえばどうか？
 ⇒第 1 回の発表時、出版社と連携し POP とポスターを作成し、大阪府下の書店に配付してもらった経過がある。書店から One Book に選ばれた絵本の売り上げが好調で、他のランキングも店内に掲示したいとのご要望も受け、許諾した。(HP よりプリントアウト可能) 販促に使っていただくのもありかと考えている。
- ・ 書店等とタイアップするのは本来の目的とズレているのでは？
 ⇒予算や体制を考慮すると、継続の道を模索するためには、さまざまな方策も検討していく必要がある。運営委員会でも NPO 法人の活動として企業から後援してもらい子育てイベントを開催したという報告も頂いた。今後も財源について検討したい。(事務局)
- ・ 子どもの読書気運を高める、その入り口が「絵本」であるという根本をしっかり持っていれば、ぶれることはないのでは？
- ・ トップランキングの絵本の貸出がどう増加したのか検証しているか？
 ⇒ベストリーダー・ベストリクエストは出力可だが、個別の絵本ごとの調査はしていない。その視点は抜けていた。(事務局)
- ・ 大阪市の図書館は、ボランティア 2500 人の力を持っている。小学校では図書館活性化の取組も実施してきている。他の自治体と比べて自信を持つべき。この事業の魅力のひとつに子ども運営委員の活躍がある。10 数人の子ども運営委員だが、他の子どもにとっても、その活躍はパワーとなるはず。